

「中大規模木造建築のコストマネジメント・ガイドブック」講習会 業界紙各社の記事について

建設通信新聞

2022年08月05日 002面

木造コストマネジメントで講習会

日積協

日本建築積算協会（浦江真人会長）は4日、『中大規模木造建築のコストマネジメント・ガイドブック』講習会をZoomによるオンライン形式で開いた。講習会にはゼネコンや積算事務所などから約200人が参加し、木造分野のコストマネジメントに対する関心の高さをうかがわせた。講習会は2021年8月に同協会が発刊したガイドブックの内容を解説するもの。日本の木造建築の推移をはじめ、生産システム、材料、法令などをコストマネジメントの観点から、最新の事例も交えて幅広く講義した。



冒頭、浦江会長は「編集していた段階から、木造建築を取り巻く社会状況がかなり変化しているので、講師の方々には最新の情報を盛り込んで講義してもらおう予定だ。今回の講習会に留まらず、木造建築分野に関する活動や人材育成に取り組んでいきたい」とあいさつした。写真。

日刊建設工業新聞

2022年08月08日 002面

中大規模木造建築のコストマネジメントを解説

積算協会、オンライン講習会に192人参加

日本建築積算協会（浦江真人会長）は4日、「中大規模木造建築のコストマネジメント・ガイドブック」を解説するオンライン講習会を開いた。同ガイドブックの内容を執筆者が説明。ゼネコンや建築設計事務所、積算事務所のほか、建設コンサルタント、自治体などから192人が参加した。



冒頭、浦江会長は「積算コストマネジメントに関する関心が非常に高い。今回のガイドブックの刊行、講習会にとどまらず、情報発信や人材育成に取り組みたい」とあいさつ。続いて講師陣が、日本の木造建築の変遷や、関連法令・基準、設計・積算・施工、今後の展望などを講義した。最新事例として、千葉県流山市が整備した「流山市立おおぐろの森中学校」での積算対応を紹介。木造建築のコストマネジメントの留意点や積算基準作成に向けた動きなども説明した。

講習会後に開いた会見で、浦江会長は「（今回のガイドブックは）基本的なことや事例、プロセスの紹介になっているので、第1弾とされている」と述べ、コストマネジメントの面で、今後さらに深掘りしていくことが必要との認識を示した。柳泰彦PCM委員長は「積算だけでなく、プロセスや背景の全体を知ることが大事だ。広い意味でのコストマネジメントにより触れていただく活動をしていきたい」と述べた。

建 通 新 聞

2022年（令和4年）8月10日<水曜日> (3)

日本建築積算協会
講習会に200人参加
木造建築コスト管理

日本建築積算協会（浦江真人会長）は、4日に同協会が発刊した「中大規模木造建築のコストマネジメント・ガイドブック」のオンライン講習会を開き、全国から約200人が参加した。

同ガイドブックは近年、木造建築が幅広い用途で建設されていることから、中大規模木造建築の積算やコスト管理の理解を促すとともに、木造建築の普及を目指して編集。2021年8月に刊行した。

講習会にはガイドブックの執筆者から6人が講師となり、木造建築の歴史、材料、設計、採用事例、コストマネジメントについて講義。ウッドショックやロシアによるウクライナ侵攻の影響など、最近の環境変化も踏まえながら説明した。

浦江会長は「建築積算技術者だけでなく、意匠、マネジメントなど多くの人に関心を持ってもらうことができた。これからコスト面の技術情報を発信し、人材育成につなげたい」と話した。